

パラグアイ内政・外交報告(7月分)
政治情勢

2015年8月作成

内政では、26日、与党コロラド党の党首選挙が実施され、大方の予想通り、カルテス大統領が支持するペドロ・アリアナ下院議員が約50万票を獲得し当選した。また、10日～12日、法王フランシスコが当国を訪問し、アスンシオン市を中心にミサ等の公式行事が行われ、市内は歓迎ムードに包まれた。同訪問の様子は、CNN等の国際メディアでも大きく取り上げられた。

外交では、17日、カルテス大統領がブラジルで開催された第48回メルコスール首脳会合に出席し、同会合において、パラグアイが2015年後半のメルコスール議長国に就任した。パラグアイは2015年末までメルコスール議長国を務め、EU・メルコスール間のFTA交渉及び非関税障壁除去津等の優先課題に取り組むことになる。

1 内政

(1)カルテス大統領による年次報告発表

●上下両院で新議長及び副議長が就任した1日、カルテス大統領は議会における演説で年次報告を行ったところ、主要点は以下のとおり。

＜外交関係＞

- プラグマティックかつ多様性に富んだ外交を展開。
- 大統領レベルでは、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、スペイン、日本及び台湾を訪問し、外相レベルでも南米を中心に積極的な外国訪問を実施。
- 7月中旬、パラグアイはメルコスール議長国に就任する予定であり、EU-メルコスールFTA 締結交渉等の課題に取り組む。

＜社会政策＞

- 食糧輸出国であるパラグアイにおいて、貧困が存在する事実は許しがたい。引き続き、政府をあげて貧困対策に取り組む。
- 政府は、極貧層削減国家プログラム「Sembrando oportunidades」を通じて、住宅、教育、医療、飲料水、電気等公共サービスに関する包括的な支援を実施。
- 小農支援分野で、支援対象家族を10万世帯に増加。
- 麻疹及び風疹の根絶を達成するとともに、2014年に大幅なデング熱感染者の減少を達成。
- カルロス・アントニオ・ロペス研究奨学金制度を設立。

＜治安対策＞

- 北部地域における組織犯罪は、引き続き政府の優先課題。直接的な対策に加え、北部地域の住民に対して、社会インフラ整備、農業技術支援、学校建設、民生住宅提供などの支援を実施中。

＜経済・インフラ整備＞

- 128億ドルと言われているインフラ投資需要を満たすためには、国内外の企業と官民連携の下、公共事業を進めることが不可欠。官民連携のスキームを利用することこそが、パラグアイが進むべき道。
- 2015年1月～5月の税収は2013年同時期比で37.6%、2014年同時期比で10.6%増を達成。
- 世界の5大自動車部品メーカーの内、4社がパラグアイに工場を構えていることは、順調に外国からの投資が進んでいることの証左。

(2)法王フランシスコのパラグアイ訪問

＜大統領府での歓迎式典＞

●10日午後、法王フランシスコは南米歴訪における最後の訪問国パラグアイに到着し、その後、大統領府において歓迎式典に参加し、政府関係者や外交団を前にスピーチを行った。

●ローマ法王は、歓迎式典のスピーチの中で、戦争(三国戦争)により荒廃した戦後パラグアイにおいて、女性達が国の未来を背負って努力してきた歴史を賞賛するとともに、政府当局に対し、引き続き民主主義の強化を行い、国民の期待に応えるよう述べた。また、汚職や暴力の排除を求めるとともに、特に無防備な人々の尊厳が尊重される経済モデル導入の必要性を説いた。

＜カアクペ聖母巡礼聖堂におけるミサ＞

●11日午前、アスンシオン近郊にあるカアクペ聖母巡礼聖堂においてミサを捧げた。同ミサの祈りはスペイン語及びグアラニー語で行われた。ローマ法王は、同ミサにおいても、パラグアイの女性が困難な状況の中でも信仰を貫き、戦後復興に貢献した勇気と献身を讃えた。

＜ヌ・グアス公園におけるミサ＞

●12日、法王フランシスコは、アスンシオン市近郊のヌ・グアス公園においてミサを執り行った。同ミサには100万人を越す信者が参加した。

●同ミサにおいて、ローマ法王は、教会は常に開かれた存在でなければならず、特に支援を必要とする人々や困難に立ち向かう人々に対して開かれなければならない旨述べた。

●なお、同ミサのために準備された祭壇を覆う舞台は、トウモロコシや果物などで飾られるとともに、聖フランシスコと聖イグナシオ・ロヨラの肖像が穀物の種を用いたモザイク画が描かれたものであり、その独創性につき、国内外のメディアから高い評価を受けた。

(3)コロラド党党首選挙及び各党市長・市議会候補選出予備選挙の実施

●26日、与党コロラド党党首選挙及び各党・政治運動による全国市長・市議会選挙の予備選挙が行われた。

＜コロラド党党首選挙＞

●コロラド党党首選挙においては、大方の予想通り、カルテス派のペドロ・アリアナ下院議員が約50万票(48%)を獲得し当選した。反カルテス派から立候補したマリオ・アブド・ベニテス上院議長は、約39万票(37%)を獲得するに留まり落選した。なお、アリアナ次期党首の任期は2016年4月から5年間。

●上記結果を受け、当選したアリアナ下院議員は、引き続きカルテス政権を支援する旨表明するとともに、本年11月の全国市長選でコロラド党所属の市長の数を増加させ、2018年の総選挙に向けた地盤固めを図る旨述べた。

＜コロラド党市長・市議会候補選出予備選挙＞

●同日、コロラド党市長・市議会候補選出予備選挙が行われ、注目を集めたアスンシオン市

長候補選出予備選挙においては、現職のアルナルド・サマニエゴ市長が、オスカル・トゥマ下院議員及びシンシア・タラゴ下院議員を退け当選した。シウダデルエステ及びエンカルナシオン市長候補選出予備選挙では、それぞれ現職のサンドラ・マクレオド市長、ホエル・マイダナ市長がコロラド党候補として選出された。

(4) 中国におけるパラグアイ人死刑執行問題

●2012年に北京首都国際空港において、コカイン密輸を企てたとして逮捕され、死刑判決を受けているパラグアイ人のロサリア・アマリージャ氏に関し、18日、同氏の姉であるパトリシア・アマリージャが記者団に対し、ロサリア・アマリージャ死刑囚が矯正の実績に鑑み、無期懲役に減刑される見通しである旨述べた。

2 外交

(1) 対台湾関係

●12日、リウ当地台湾大使は当地ラ・ナシオン紙からのインタビューに応じ、パラグアイは南米で唯一の同盟国であり、最も重要な同盟国である旨述べるとともに、パラグアイが国連を始めとする国際機関における台湾の参加に協力している旨述べた。更に、今後は、二国間関係の中でも特に貿易分野に力を入れるべきである旨述べた。

(2) 対韓国関係

●8日、ラウル・シルベロ駐韓国パラグアイ大使は、パク・クネ大統領に対し、信任状を捧呈し、その後、同大統領と会談を行った。

●パク大統領は、同会談において、1962年に始まった外交関係を始めたとした良好な二国間関係を強調した。また、同大統領は、高齢者の健康や公共交通設備の改善などを中心に、様々な分野でパラグアイへの協力を継続していくという韓国政府の決定を表明した。更に、今年の韓国人移住50周年に当たり、パラグアイ政府及びパラグアイ国民が韓国人移民を温かく迎え入れたことを評価する旨述べた。

●これに対し、シルベロ大使は、国際場裡における韓国に対する支援を継続する旨述べるとともに、1956年4月22日に韓国人移住が始まったことを記念し、同日が韓国の日に制定された旨述べた。また、同大使は、既にパラグアイに進出し成功を収めた韓国企業があり、引き続きパラグアイを南米の拠点として利用すべき旨述べた。

(3) 当地イスラエル大使館の再開

●22日、大統領府において、新たに着任したペレグ・レヴィ当地イスラエル大使がカルテス大統領に対し信任状を捧呈し、当地イスラエル大使館が正式に業務を再開した。イスラエルは、財政上の理由で、2002年に在パラグアイ大使館を閉鎖し、以降、在アルゼンチン・イスラエル大使館がパラグアイを兼轄してきた。他方で、パラグアイも2002年に在イスラエル大使館を閉鎖したが、2014年に同大使館を再開していた。

(4) カルテス大統領の第48回メルコスール首脳会合出席

●17日、カルテス大統領はブラジルで開催された第48回メルコスール首脳会合に出席し、同会合において、パラグアイが2015年後半の議長国に就任した。

<カルテス大統領のステートメント>

●カルテス大統領は、同会合におけるステートメントの中で、非関税障壁の撤廃及び生産要素の自由な流通の重要性を強調するとともに、右重要性に鑑み、関税・非関税障壁除去に向けた作業プランの承認を推し進めた旨述べた。また、パラグアイが議長国となる半年間の優先テーマとして、EUとのFTA交渉を掲げ、同交渉の妥結は、今後進めるべき他のFTA交渉の鍵にもなる旨述べた。

＜対外共通関税例外品目及び現地調達率の特別措置＞

●16日、共同市場理事会において、パラグアイの対外共通関税例外品目の終了時期が2023年に延期されるとともに、域内貿易においてメルコスール原産と認められるために必要とされている現地調達率を40%とするパラグアイへの特例措置が2030年まで延長されることが決定した。同理事会に参加したリゴベルト・ガウト外務次官（経済担当）は、パラグアイの工業化にとって、両決定が持つ意味は大きく、特にパラグアイへの外国企業誘致につながる大きな成果であると高く評価した。

＜FOCEM（メルコスール構造格差是正基金）＞

●17日、FOCEM（メルコスール構造格差是正基金）の2025年までの10年間の延長が決定された。なお、同基金の最大の受益国はパラグアイとウルグアイである。

(5) 伯軍のパラグアイ国境侵犯問題

●28日、カニンデジュ県のプエルト・アデラを流れる国際河川パラナ川において、国境犯罪等に対する大規模な軍事作戦「第9回アガタ作戦」を繰り広げていたブラジル国軍が、密輸を行っていたと見られる船舶を発見し、銃撃戦となり、パラグアイ側管轄水域まで侵入し、船舶を拿捕した。また、29日、同県プエルト・ティグレにおいても同様の事件が発生した。なお、両事件では合計6隻が拿捕されたものの、死傷者は発生しなかった。

●31日、カルテス大統領は、大統領府において、ソト・エスティガリビア国防相、ロイサガ外相、国軍幹部から、事件の報告を受けた。カルテス大統領は、国際犯罪の撲滅に向けてブラジルと協力することには何ら問題はないが、領域主権は尊重されるべきであるとして、ロイサガ外相に対し、フェリシオ当地ブラジル大使を召還し、抗議するよう指示を出した。

●同日、ロイサガ外相は、フェリシオ当地ブラジル大使を召還し、拿捕事件及び河川国主権の侵害にかかる抗議文を手交した。ロイサガ外相は、記者団に対し、「フェリシオ大使がパラグアイ政府の懸念を本国に然るべく伝えたと約束した。」旨述べるとともに、「パラグアイ側への侵入は事前通告無しに行われたものであり、同様の事件の再発防止を望む。」旨述べた。

3 要人往来

(1) 来訪

●10日～12日、ローマ法王フランシスコ（南米3カ国公式訪問）

●11日、フェルナンデス・アルゼンチン大統領（法王フランシスコによるミサ出席）

(2) 往訪

●13日～16日、ペーニャ蔵相、コロンビア訪問（アンデス開発公社会合出席）

●13日～17日、レイテ商工相、ブラジル訪問（メルコスール経済会合出席）

●16日～17日、カルテス大統領他、ブラジル訪問（メルコスール首脳会合出席）

●18日～26日、アベド司法相、スペイン訪問（刑務関係セミナー出席）

●29日～31日、バイアルディ女性相、ドミニカ共和国訪問（女性関係会合出席）